

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) について

1. 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) (別紙2参照)

渡り鳥の主要な渡り経路 (フライウェイ) として世界には9つのフライウェイの存在が知られています。東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) は、北はアラスカからロシア東部、シベリアにかけての地域から、日本や朝鮮半島と中国東部を通り、東南アジア、ニューギニア、オーストラリアからニュージーランドへかけての地域で、渡り鳥の保全上特に重要なフライウェイと認識されています。

2. 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP)

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ下の国々や渡り鳥を保全する取組を行っている人々が協力するための枠組が東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) です。現在39の国や団体が参加し、渡り鳥の生息状況や保護活動について、情報や技術の交換を行っています。



3. 重要生息地ネットワーク

EAAFPでは、渡り性水鳥の重要な生息地が重要生息地ネットワークを形成しています。2023年3月現在、日本国内では34か所の生息地がこのネットワークに参加しています (別紙3参照)。

なお、日本では、種群ごとに生息している場所や保全活動内容が異なることが多いため、シギ・チドリ類、ガンカモ類、ツル類の3つの種群ごとに重要生息地ネットワークを設置しています。

4. 参加主体 (39主体)

- 関係国政府 : 豪州、日本、米国、ロシア、韓国、インドネシア、シンガポール、フィリピン、カンボジア、中国、バングラデシュ、タイ、モンゴル、ニュージーランド、マレーシア、朝鮮民主主義人民共和国、ミャンマー、ベトナム (18カ国)
- 国際機関等 : ラムサール条約事務局、生物多様性条約事務局、ボン条約事務局、国際連合食糧農業機関 (FAO)、北極動植物相保全作業部会 (CAFF)、ASEAN生物多様性センター (6機関)
- 国際NGO : 国際自然保全連合 (IUCN)、国際湿地保全連合 (WI)、世界自然保護基金 (WWF)、バードライフ・インターナショナル (BLI)、国際ツル財団 (ICF)、オーストラリア渉禽類研究グループ (AWSG)、日本野鳥の会、英国水禽湿地協会 (WWT)、プロコロコ・ミランダ・ナチュラルリスト協会、野生生物保全協会 (WCS)、ハンス・ザイデル財団、ポールソン研究所、香港野鳥の会 (HKBWS)、マングローブ基金 (MCF) (14団体)
- 国際企業 : リオ・ティント (1社)